

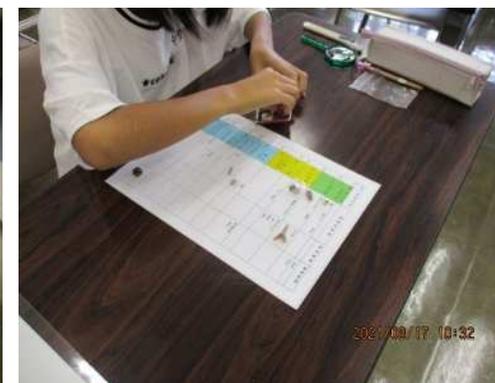
土曜日の教育支援・南部地区

上尾市・実物標本でつくる化石図鑑			
活動場所	上尾市立大谷公民館	参加者数 (1日平均)	14人
参加対象	小学5年生～中学3年生		
連携団体	上尾市まなびすと指導者バンク		
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 講師が準備したキットで、実物の化石で図鑑を作る。 【使用した化石】 <ul style="list-style-type: none"> ・サメの歯 ・クサリサンゴ ・アンモナイト ・ストロマトライト 等 化石の標本を観察し、古生物の進化や多様性を知る。 		
活動の成果	<p>様々な技術や経験を持つ指導者の情報を提供する「上尾市まなびすと指導者バンク」に登録している指導者を講師とし、実施した。</p> <p>実物の化石に触れたり、ルーペを使って観察したりしたことで、参加者の知的好奇心を高めることができた。</p> <p>また、小学生を対象とした講座が多い中で、中学生も参加できる講座を実施したことで、小学生と中学生の交流を図ることができた。</p>		

上尾市基本情報			
実施教室数	19教室	対象学校数	小学校22校 中学校11校
主な対象学年	小学1～6年生 中学1～3年生	平均開催日数	1.3日
コーディネーター数	24人	ボランティア数	0人
講師の属性	上尾市まなびすと指導者バンク登録指導者、元教員、大学講師、企業、一般社団法人等		



〔化石の説明〕



〔化石図鑑の作成〕

土曜日の教育支援・南部地区

蕨市・キラリ中東っ子土曜塾			
活動場所	蕨市立下蕨公民館	参加者数 (1日平均)	10人
参加対象	3～6学年		
連携団体	地域の方		
活動内容	<p>・行政・家庭・地域が連携協力し、子どもを育む環境づくりを推進する。児童の自主的な学習(宿題・課題)をサポートし、子どもたちに集中して学ぶ大切さや楽しさを教え、学習習慣の定着や基礎学力の向上を図っている。</p> <p>・元教員の方が全体を統括する塾長(コーディネーター)を担っている。宿題やドリルのわからない所を教える学習アドバイザーには元教員や大学生(卒業生)が務め、出入り口の管理等を行う安全管理員(見守り役)は元PTAの方から協力を得ている。</p>		
活動の成果	<p>○参加者の声：『わからない問題を教えてもらった時は、とても楽しく、わかるようになってうれしかった。』『土曜塾だとやる気が出てきて、サクサクと宿題を終わらせることができた。』『しっかり集中して宿題と自主勉強をすることができた。』『2学期の復習ができたので、学校で生かしたい。』</p> <p>○元教員の方が塾長(コーディネーター)や学習アドバイザーを務めているため、学習面でのサポートはもちろんのこと、学校との連絡調整等が大変スムーズである。例年は、通いなれている学校を会場にしているが、コロナ渦ということを考えて、よりも広いスペースのある市内公民館で開催した。新型コロナウイルス感染症の影響により、開講日を延期したり、活動内容の見直しを図ったりと例年通りにはいかないこともあったが、スタッフの方のご協力により、全小学校区で開催できたことは非常に意味のあることだと感じた。</p>		

蕨市基本情報			
実施教室数	7教室	対象学校数	小学校7校
主な対象学年	3～6学年	平均開催日数	8日
コーディネーター数	7人	ボランティア数	81人
講師の属性	元教員、塾講師、大学生、地域の方		



〔東小土曜学習クラブ & 塚小っ子土曜塾～書初め〕



〔北小土曜塾～学習の様子〕

土曜日の教育支援・南部地区

朝霞市・おもしろ工作教室			
活動場所	朝霞第三小学校	参加者数 (1日平均)	15人
参加対象	1～6学年		
連携団体	NPO法人朝霞ぐらんぱの会		
活動内容	<p>市内小学生を対象に工作指導を行い、テーマに沿った作品作りを行う。</p> <p>1回目：八重のかざぐるま、くるくるへびさん 2回目：びっくり箱、メリーゴーランド 3回目：びっくりカメラ、糸で作る花 4回目：割りばし鉄砲 5回目：手作り手品、輪ゴムでパッチン 6回目：万華鏡、ポンポンキャッチャー 7回目：ダンボールで、くつ職人 8回目：紙飛行機 9回目：いろいろなトンボ、ディスク・コマ、糸電話（中止） 10回目：ホバークラフト 11回目：ダンボールで、かばん職人 12回目：わたし（ぼく）だけの、不思議な本</p>		
活動の成果	<p>NPO法人朝霞ぐらんぱの会に協力してもらい、工作の指導をしてもらった。ぐらんぱの会の皆さんは、参加対象の小学生にとって祖父母世代の方々と構成されており、当事業が異世代交流の場にもなった。</p> <p>参加者は、様々な工作文具の正しい使い方を指導してもらったとともに、学校の図工等で扱わないような珍しい工作を行うことで、回を追うごとに、工作意欲が高まっている様子だった。</p> <p>今年度は、昨年度同様に新型コロナウイルス感染症の影響から、例年よりも参加定数を減らし、徹底した感染対策を行いながらの実施となったが、作品を持ち帰って家族と遊んだり、工作内容について話したりと、保護者からは親子の触れ合いが増えたと、好評を得ることができた。</p>		

朝霞市 基本情報			
実施教室数	6教室	対象学校数	小学校6校
主な対象学年	1～6学年	平均開催日数	11日
コーディネーター数	1人	ボランティア数	54人
講師の属性	市内NPO活動団体、市内民間企業、書家		



〔ダンボールで、くつ職人〕



〔びっくり箱〕

土曜日の教育支援・南部地区

新座市・新座っ子ぱわーあっぷくらぶ（東北小-ソフトバレー）			
活動場所	東北小学校 体育館	参加者数 (1日平均)	26人
参加対象	1～6学年		
連携団体	特になし		
活動内容	<p>ソフトバレーボールの基礎からゲーム形式までを体験し、楽しさを知る。 3コート設置し、2学年ずつに分かれ、各コート約2名の講師が指導する。</p> <p>1回目：オリエンテーション 2回目～8回目：（内容は共通）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ボールの空気入れ、コート設置 2 朝の挨拶と確認 3 ランニング、準備体操、ダッシュ 4 ボール投げ、対人パス 5 オーバーパス、アンダーパス、レシーブの練習 6 スパイクの練習 7 サーブの練習 8 ゲーム形式での練習 9 ネット・ボールの片づけ、モップ掛け 10 整理体操 11 終わりの挨拶 <p>学年や性別、子どもたちの習熟度に合わせて、それぞれの講師が工夫をして指導している。</p>		
活動の成果	<p>毎回、パスからスパイク、サーブまでのプレーの基本練習から行い、ソフトバレーに興味を持って、児童がやりたいと思ってくれることを大切にしながら活動している。</p> <p>練習の準備や片づけも参加児童全員で行って、ボールの空気入れが足りない時などは、順番でやっている。準備をせずに、ボールで遊んでしまう子どもたまにいますが、準備や片づけもソフトバレーをするためには、必要な事ということも伝えれば良いと思っている。</p> <p>第1回目で伝えた後は、子どもたちが皆で率先して行ってくれている。</p> <p>1・2年生は、スパイク練習は止めたボールで打ったり、3・4年生は動いてボールを取ることを多く行う。5・6年生は試合形式で行うなど、各学年に合わせてやり方を変えている。また、サーブの打ち方などでは、いくつかのやり方から自分に合ってるものを自分で選んで取り組んでもらっている。</p> <p>見学の保護者の方も、ボール拾いや片づけを手伝ってくださり、チームスポーツであるソフトバレーにとって、みんなで協力することが大切である事も実践しながら伝えられているように感じる。</p>		

新座市 基本情報			
実施教室数	28教室	対象学校数	小学校17校
主な対象学年	全学年	平均開催日数	10日
コーディネーター数	7人	ボランティア数	129人
講師の属性	企業人、大学生、元教員、NPO法人等		



〔全員で準備体操〕



〔スパイクの練習〕

土曜日の教育支援・南部地区

北本市・土曜補習			
活動場所	教室	参加者数 (1日平均)	63人
参加対象	3学年		
連携団体			
活動内容	<p>○ねらい 3年生を対象とし、進路実現を図るために生徒の学力向上、学習習慣の継続を目的とした事業である。</p> <p>○内容 5教科：8講座を設定した。 ①【国語】基礎 ②【国語】応用 ③【数学】基礎 ④【数学】応用 ⑤【英語】基礎 ⑥【英語】応用 ⑦【社会】基礎 ⑧【理科】基礎</p> <p>○期間（全6回） 10月23・30日、11月20・27日、 12月4・11日</p> <p>○その他 ・受講は希望制とし、受講者はテキストを購入する。 ・学習形態は、各自が進める演習方式と講師（本校教職員）が進める授業方式を併用する。</p>		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・【基礎コース（既習事項の基礎・基本的な内容）】から【発展コース（入試問題レベルの内容）】までの講座を設定したことで、生徒の個々の学習上の課題を解決できた。 ・受講した生徒にとっては、通常の授業以外で学ぶ機会ということもあり、集中して取り組む様子が見られた。また、進路実現に向けて前向きな姿が多く見られた。 ・講師（教職員）にとっては、生徒の学習のつまずきを細かく把握することが可能なため、そのつまずきを授業改善につなげることができた。 ・3学年以外の職員が多く参加し、生徒の支援を行うことができた。学校全体で生徒たちを支援していこうとする風土が醸成された。 		

北本市 基本情報			
実施教室数	11教室	対象学校数	小学校7校 中学校4校
主な対象学年	全学年	平均開催日数	8日
コーディネーター数	11人	ボランティア数	298人
講師の属性	教職員、大学生（教育実習生）		



〔数学・基礎〕



〔英語・応用〕

土曜日の教育支援・南部地区

草加市・草加寺子屋			
活動場所	各小学校 教室	参加者数 (1日平均)	各小学校30人
参加対象	3学年～6学年児童		
連携団体	なし		
活動内容	<p>【活動概要】 多様な学習の場を提供し自学自習に取り組むことを通して、主体的に学ぶ習慣を児童に身に付けさせるとともに、「草加っ子の基礎・基本」を踏まえ、本市の児童の基礎学力、特に小学校国語・算数における学力の定着を図る。</p> <p>【活動の内容】 ○ 実施日・回数 令和3年5月～令和4年2月 全13回 ○ 学習時間 50分×2コマ 国語・算数</p> <p>【学習の取組】 児童全員が当日準備された学習プリント（一人4枚程度）に取り組む。終わった児童は、解答を受け取り自己採点する。分からない問題は、挙手にて学習支援員に質問し、自分で問題が解けるようにする。 学習プリントが全て終わった児童は、教科書や自分で用意したドリル等の問題に取り組む。原則として、国語及び算数の学習を中心に行う。</p>		
活動の成果	<p>主に国語及び算数の基礎学力を身に付けたいと願う小学生のために、原則として第2・第4土曜日に教育委員会が提供している自学自習の場として、毎年、多くの児童が参加申込をしている。</p> <p>学習プリントを用いて、既習の内容に取り組むことにより、「分かる、できた」経験を積み、基礎学力の定着を図ることができている。</p> <p>運営管理員は、教育委員会が退職校長会等に依頼することにより、学校と円滑に連携を図ることができるほか、学習環境を整備し、児童は落ち着いて、整えられた環境で学習に取り組むことができる。また、学習支援員にとっても、教える喜びを感じ、地域へ貢献する機会として、活力ある地域づくりの一助となっている。</p>		

草加市 基本情報			
実施教室数	21教室	対象学校数	小学校21校
主な対象学年	3学年～6学年	平均開催日数	13日
コーディネーター数	21人	ボランティア数	144人
講師の属性	【運営管理員】 退職校長等 【学習支援員】 教員を志望する学生 地域の方		



〔草加寺子屋 学習の様子〕

土曜日の教育支援・西部地区

坂戸市・学力のびのび塾			
活動場所	公民館・交流センター等	参加者数 (1日平均)	5.8人
参加対象	5学年		
連携団体	特になし		
活動内容	<p>小学5年生が4年生の国語・算数のドリルを使って学習する。前年度の学習を行い、「分かる」経験を積むことで、基礎学力の定着と学習意欲の向上につなげる。</p> <p>また、地域の人材を学習支援員として活用することで、支援員にとっても教える喜びを感じ、地域へ貢献する機会として機能し、活力ある地域づくりの一助とする。</p> <p>参加児童と学習支援員は1回目から最終回まで同じ教室に参加するため、児童それぞれに合わせた指導を可能としている。</p> <p>教室は地域の公民館等を使用し、新型コロナウイルス感染拡大防止策として学校ごとに会場を設定し、少人数での実施とした。</p> <p>また、小学校の土曜日授業等を考慮した不規則な開催日のため、各教室の開催週に、事前にメールアドレスを登録した保護者・学習支援員宛にお知らせメールの配信を行えるようにしている。</p>		
活動の成果	<p>新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、1年ぶりの実施となった。感染拡大防止策として1学年、少人数での実施となったが、マンツーマンに近い状態での実施により、参加児童は手厚い指導を受けることができた。</p> <p>会場の設定や学習支援員の確保が毎年課題となっているが、参加した学習支援員は地域の小学生とのかかわりを持ちながら社会参加することができ、支援員同士の交流も生まれている。学習支援員は教員経験者が多いが、募集の際に広く声をかけることで、市内外の大学生や地域の一般の方も増えてきている。</p> <p>社会教育指導員の経験を持つ元校長である統括コーディネーターを配置すること、学校教育課、教育センターなどと連携していることで、様々な視点で事業を検討できた。</p>		

坂戸市基本情報			
実施教室数	12教室	対象学校数	小学校12校 中学校0校
主な対象学年	5学年	平均開催日数	12日
コーディネーター数	13人	ボランティア数	63人
講師の属性	元教員、大学生、NPO関係者、一般市民		



〔指導の様子①〕



〔指導の様子②〕

土曜日の教育支援・北部地区

熊谷市・ウィークエンドサイエンス			
活動場所	熊谷市全域	参加者数 (1日平均)	12人
参加対象	全学年		
連携団体	熊谷の環境を考える連絡協議会、埼玉県河川環境団体連絡協議会、別府沼を考える会 等		
活動内容	第1回 和田吉野川の水辺環境と生き物調べ 第2回 別府沼公園の自然観察 第3回 ゼリガニロボットを作ってゲームをしよう 第4回 見てみよう！魚のひみつ！ 第5回 サイエンスショー 第6回 鏡を使わない不思議な万華鏡をつくろう 第7回 手作りハガキを作ってみよう！ 第8回 野鳥の森で自然に触れよう！ 第9回 走れ！リニアモーターカー！ 第10回 第1回超・冷たいでSHOW!-196℃の世界へようこそ！ 第11回 第2回超・冷たいでSHOW!-196℃の世界へようこそ！ 第12回 進め！ポンポン船 第13回 プログラミング学習～便利な生活のひみつ～ 第14回 静電気で遊ぼう！ 第15回 空気っておもしろい！簡単熱気球を上げよう！【中止】 第16回 高く飛び上がれ！目指すは宇宙！ペットボトルロケット【中止】 第17回 ハンドパワーで浮き沈みする不思議なおもちゃ「浮沈子」を作ろう【中止】 第18回 空気で遊ぼう～意外と知らない空気のひみつ～【中止】 第19回 不思議ですてきな浮き沈み！いろいろな浮沈子でオリジナル水族館【中止】 第20回 空気の不思議な力を体験しよう【中止】		
活動の成果	○感染症対策とし、講師、スタッフ、参加者の検温、消毒を徹底した。室内では、常時換気をし、1家庭1テーブルを原則とし活動を行った。また、参加者を縮小したことにより、身体的距離を確保して実施することができた。 ○市報で、ボランティアを募集したところ、市内在住の4名を新規に登録することができた。講師が手薄な回に、この4名の方にサポートを依頼したことにより、活動がより円滑に進められるようになった。 ○科学や生物、環境等を扱った多種多様な取組ができ、参加者の興味、関心を高めることができた。		

熊谷市基本情報			
実施教室数	1教室	対象学校数	小学校29校 中学校16校
主な対象学年	全学年	平均開催日数	20日
コーディネーター数	1人	ボランティア数	52人
講師の属性	小・中学校教員、元教員、大学生等		



〔サイエンスショー〕



〔別府沼の自然観察〕

土曜日の教育支援・北部地区

深谷市・花園小がんばル〜ム			
活動場所	図書室、空き教室	参加者数 (1日平均)	25人
参加対象	全学年		
連携団体			
活動内容	<p>主に算数と国語を中心に市販のワークを使用し、「ちいきの先生」が自主学習の指導・相談を行っている。</p> <p>様々な学年の子供たちが一緒に学習を行い、子供同士でわからないところを教え合うなど、異学年交流の場ともなっている。</p> <p>花園小学校では、図書室など3つの教室で8人の「ちいきの先生」が自主学習の支援を行っている。先生方が個別に勉強を見ることで、子供のペースに合った学習をすることができる。</p> <p>また、学習時間以外にハーフタイム（休憩時間）の自由遊びや運動を通して異世代・異年齢の交流を図っている。がんばル〜ム内で避難訓練も実施しており、児童の安全確保も図っている。</p> <p>「ちいきの先生」は、広報や公民館だより等を通じて一般公募し、教育委員会の面接を経て、登録を行っている。</p>		
活動の成果	<p>近年子供たちの休日の過ごし方は多様となり、より充実したものとなっている。本事業は、子供たちが有意義な土曜日を過ごすための一つの選択肢として、大変重要である。</p> <p>子供たちへのアンケートでは、「勉強やハーフタイム、お友達や先生と話すことが楽しかった」「来年度も参加したい」との回答が多く見られ、とても好評であった。</p> <p>勉強以外にも楽しめるプログラムを取り入れながら、学校・家庭と一層連携し、充実した「がんばル〜ム」へとつなげたい。</p>		

深谷市基本情報			
実施教室数	19教室	対象学校数	小学校19校
主な対象学年	全学年	平均開催日数	23日
コーディネーター数	19人	ボランティア数	124人
講師の属性	地域の方々（退職者や大学生等）		



【避難訓練】



〔机の下に避難〕

土曜日の教育支援・北部地区

寄居町 より・E英語塾			
活動場所	寄居町中央公民館	参加者数 (1日平均)	45人
参加対象	6学年		
連携団体	(株)RCSコーポレーション		
活動内容	<p>寄居町立各小・中学校にALTを派遣している業者に業務を委託して実施している。</p> <p>○7月下旬から2月下旬まで、原則土曜日に全25回実施。</p> <p>○町内6校の6年生を対象に、英語を使ったコミュニケーション(英会話)の授業を45分間行う。</p> <p>○授業は日本人講師と外国人講師で行い、すべて英語でコミュニケーションをとる。</p> <p>○7月から9月までの3か月間で、自分のことについて英語で話せるようにする。10・11月の2か月間で、日本や世界各国について英語で紹介できるようにする。12月には、「読むこと」と「書くこと」の活動を行う。1・2月には、今までの復習を兼ねて、自分で課題を決め、自分の考えや想いを英語で表現する発表会を行う。</p>		
活動の成果	<p>○授業はすべて英語で行われる。ゆっくりたくさん聞かせることで、子どもたちはうなずいたり、身振りや手振りなどを使ったりと、コミュニケーションがとれるようになった。</p> <p>○ペア、グループ学習をたくさん取り入れたことで、子どもたちが積極的にコミュニケーションを取れるようになった。</p> <p>○緊急事態宣言下はオンライン授業で英語の学びを保障した。</p> <p>○中学校に進学しても、英語が楽しみだという児童からの声が聞かれた。</p> <p>○町内6校の児童が集まり同じ場所で学ぶことで、友達関係が広がり、円滑な人間関係を構築することができた。</p>		

寄居町 基本情報			
実施教室数	1教室	対象学校数	小学校6校
主な対象学年	6学年	平均開催日数	年間25日
コーディネーター数	1人	ボランティア数	4人
講師の属性	英会話講師 RCSコーポレーション		



〔英語で自己紹介〕



〔オンライン授業〕

土曜日の教育支援・東部地区

三郷市・おもしろ理科実験教室

活動場所	おもしろ遊学館教室	参加者数 (1日平均)	15人
参加対象	小学校1～6学年		
連携団体	埼玉大学附属小・中学校、市内校長会・教頭会		
活動内容	<p>おもしろ遊学館では、年間を通して7教室を開催している。特に表記教室は、「不思議を解いて科学を学ぼう」を合言葉に年間17講座を開設し、感動と学びのある学習を体験していきます。</p> <p><第1期理科実験教室の講座例> 【対象者】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 方位磁石を作ろう～磁石の不思議～【小1～小6】 2 ぶんぶんごまを作ろう～白黒なのに色が見えるよ～【小1～小6】 3 おもしろ浮沈子～タレピンが浮いたり沈んだり～【小1～小6】 4 スライムを作ろう～色つき、香りつき、キラキラ～【小1～小6】 5 不思議な万華鏡を作ろう～偏光版2枚とテープで～【小2～小6】 6 化石のレプリカを作ろう～身近な材料を使って～【小4～小6】 7 飛び出す写真を見てみよう～セロハンを使って～【小3～小6】 <p>工夫した点は、すべての講座で、手づくりの実験やもの作りを通して謎を解き、科学の不思議に迫った。講師として、現役の理科専門の先生方や退職校長・教頭等に依頼し、参加児童の興味・関心を高めながら、授業を構築した。</p>		
活動の成果	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、定員35名を15名に削減して、理科教室の各テーブルに1～2名のゆったりとした教室環境で実施した。</p> <p>低学年が参加できる講座は、大変人気があり、5～7倍の競争率となるものもあった。</p> <p><参加した児童の感想></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 なぜ、地球は磁石なのか不思議に思った。 2 ぶんぶんごまは、なぜあんなに回るのか知りたい。 3 浮沈子を勉強して、空気と水の関係に興味をもった。 4 自由研究の時、塩を入れて水が出てきたことが楽しかった。 5 偏光板にセロテープを貼っただけで色々な色が見えるなんて、初めて知りました。にじができる理由を知れてよかったです。 6 昔に生きていたものが石になって今に残っているのがすごいと思いました。型を作るのが楽しかったです。 <p>小学校の低学年から、この教室で科学の不思議を実体験できたことは、今後、様々な日常事象に好奇心をもって観察し、不思議さ・面白さに感動を覚えることにつながる。科学好きの子供の育成に貢献できていると確信している。</p>		

三郷市基本情報

実施教室数	6教室	対象学校数	小学校19校 中学校8校
主な対象学年	小学校1～6年 中学校1～3年	平均開催日数	72日
コーディネーター数	64人	ボランティア数	2人
講師の属性	現役及び元小中学校校長・教頭・教諭、大学教授、ALT		



〔講座5 不思議な万華鏡をつくろう〕



〔講座7 飛び出す写真を見てみよう〕